

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500055		
法人名	株式会社 ファースト・ケア		
事業所名	グループホームあんしん館		
所在地	宮城県気仙沼市松崎柳沢222		
自己評価作成日	令和4年11月7日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和4年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設では認知症の進行予防や身体機能低下予防のため、日常生活の中で壁飾りづくりや塗り絵、脳トレ、体操や散歩といった、脳や指先だけでなく全身を使う機会を設けております。また、季節を感じていただけるよう、初詣や芋煮会といった行事も行ってまいります。</p> <p>定期歯科往診や口腔ケア指導については数年前から継続することができており、ご利用者様の口腔環境の維持・向上だけでなく、職員のスキル向上にも努めながら日々の生活を支援させていただいております。協力医療機関との連携は以前と変わらず取れており、入居者様お一人おひとりに合った医療の提供を、可能な範囲で提供させていただいております。今後も、日常生活や医療の面から、入居者様だけでなくご家族様にも安心していただけるような体制を継続していけるよう努めてまいります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>気仙沼市街地から南西に約4kmの閑静な丘陵地にあるホームは、南向きの平屋建てで陽当たりが良い。ホール南側には屋根付きのテラスがあり、天気の良い日はお茶や食事等の時間を楽しんでいる。コロナ禍で外出支援が困難なため、職員が季節ごとの行事や日々のゲーム、レクリエーション等を企画し、全員参加を支援している。担当職員から家族に送付する毎月の便りに、日常や行事での様子等とスナップ写真が送られ、家族から喜ばれている。入居後に重度化した場合、家族、かかりつけ医等との話し合いを持ち、確認書を作成しての継続支援体制がある。目標達成計画の「思いの傾聴と他者との橋渡し」は日常で実践している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあんしん館)「ユニット名

」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を職員が常に見やすい位置に掲示しており、常に指針とすることが出来ている。	4年前に設定した「入居者個人の尊重」「職員相互の協力」「地域一員としての交流」を運営理念に掲げ、接遇研修で方向性確認がある。各項毎に具体的な実践目標があり、職員は日々の支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により、外出する機会や地域との交流の場が減っていて、運営推進会議も書面のやり取りによるものとなっている。今後、状況が改善していけば、交流を再開したいと考えている。	近隣の方から月に数回の電話相談があり、後日入居等の支援に繋げている。開設当初に自治会加入を依頼したが加入できず、情報等の回覧もない。他の事業所や市等の情報を得て、自治会加入を努力されたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響により、地域の方々と接する機会がない状態であるため、十分とは言えない状況にある。今後、状況が改善していけば、情報発信等を行っていききたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルスの影響があり、書面での開催となっている。その書面で様々なご意見をいただき、サービス向上に努めている。	メンバーは地域包括職員と近くのグループホーム管理者で、地域の方や家族は含まれていない。奇数月に書面で入居状況や活動報告、研修報告等の議案を郵送し、電話で聞いた意見等を記録、共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修会や運営推進会議等を通して、関係性向上に努めていた。現在は、新型コロナウイルスの影響により、電話での相談や情報交換により、関係性の維持・向上に努めている。	地域包括職員から居室空き状況の確認や、集団生活が難しい方の入居について相談があった。市主催の「コロナ感染症に関する研修会」に参加し、ホームでの対策についてアドバイスを受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除のための指針の整備や排除宣言を掲示することで、職員間で意識の共有ができています。また、適正化委員会を3ヶ月に1度開催しており、職員間でのさらなる意識付けや、知識の共有ができています。	指針や排除宣言は職員の動線上に掲示している。以前ベッドの柵に掴まりずり落ちたことがある方に、センサーを設置している。ベッド柵や車椅子の方に膝掛けを必要以上にしない等の研修を4回実施した。近隣の方の理解を得た見守り等の関係構築を期待する。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修の年次計画において虐待防止を取り扱っている。また、虐待だけでなく、虐待につながる恐れのある不適切なケアを見直す機会にすることも出来ている。	虐待防止の研修を2回開催している。職員は、虐待行為を目にした際の事業所や市への報告を理解している。不適切ケアの前兆等があった場合は、注意喚起と管理者との面談による原因排除への話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、対象となる入居者様がおられず、積極的に学ぶ機会を設けてきていなかった。しかし、介護・福祉に携わる者として、幅広く知識を得て行く機会は設けていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時または契約内容の変更時には、ご家族様に対してその都度説明させていただく機会を設けている。不明点や不安な点があれば、納得していただけるまで説明をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やそのご家族様からはそれぞれ、日常会話の中から希望や要望を汲み取ったり、毎月の手紙等や必要時の連絡で確認し、可能な限り反映することとしている。それを外部者へ表す機会は今のところ設けられていない。	花を育てるのが好きだった方が、プランターに苗を植え、水やりをしている。綺麗好きなので毎日洗濯して欲しいとの家族要望に応じている。担当職員からの最近の様子や連絡事項等と一緒に写真が郵送され、感謝がある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や提案を聞く機会を、随時設けており、必要とあれば速やかに現場に反映している。また、業務改善提案書を用いて職員の意見の具体化を図っており、その職員の実績とする仕組みが整っている。	毎月のミーティング時に、業務改善会議を開催している。他の業務と重複する居室掃除や清拭の時間をずらす提案に応じ、重複を軽減した。介護福祉士試験前日の休暇、及び資格取得後の手当支給がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情を可能な限り考慮し、シフトの調整を行っている。また、必要に応じて個人面談を行ったり、年2回の人事考課による評価・面談をする機会を設け、職員個々の思いや考えを把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修年次計画に沿って研修を毎月行っている。施設外研修については、新型コロナウイルスの影響により、積極的には勧めていない。新人職員については、エルダーメンター制度によりスキルアップや意見交換をしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会が主催する研修会や交流会に参加したり、運営推進会議を通して他施設との交流やネットワークづくりに努めてきた。現在は、地域の医師が主催する「食事・嚥下」に関する研修に毎月参加している。	協議会主催の災害対策研修会に参加した。運営推進会議メンバーである他事業所と、食事提供や避難訓練等での情報交換がある。市歯科医師会や本吉病院が主催する「食べる」等のリモート研修に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供前に、可能な限りご本人様と直接お会いさせていただき、ご要望や不安な点を把握し、サービスへ反映できるよう努めている。また、サービス内容についての説明もさせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるご本人様同様、サービス提供前に、可能な限りご家族様と直接お会いさせていただいてサービスの説明をさせていただき、ご要望や不安な点を把握し、納得していただけるまで説明させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多職種による連携が取れる体制をとっており、様々な意見交換を行い、必要と思われる支援内容の検討をしている。また、可能な範囲でサービスに反映するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様への敬意を忘れず、職員一人ひとりが信頼関係を構築していけるよう努めている。また、入居者様と生活をともにさせていただいている意識を忘れぬよう、自分自身を省みる機会を設けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、ご本人様の支援を共にさせていただけるよう、毎月の便りや必要時の連絡によって、情報の共有と信頼関係構築に努めている。それによって、必要物品の準備や適宜通院対応をして下さるような関係が作れている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様から要望があった際には、電話でお話させていただいている。新型コロナウイルスの影響により外出は控えていただいているが、オンライン面会に対応しており、遠方のご家族様と直接話ができるように努めている。	職員と二人になる入浴時等に、仕事や職場で仲良かった方の話等を聞いている。気の合う同士の居室等で、談笑し合う方もいる。自宅前の海を見たいや大川の桜を見たい等の要望に、コロナ禍で支援できなかった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様お一人おひとりの状況やお人柄を考慮し、フロアでの座席を検討することで、穏やかに過ごしていただけるよう努めている。必要に応じて職員が入居者様同士の橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設から積極的に連絡を取ることは控えさせていただいている。ご希望されれば、必要に応じてご相談に乗らせていただいたり、情報提供等を行うことが出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の話を傾聴し、希望や意向を把握するよう努めている。困難な場合は、ご家族様や縁のある方から可能な範囲で情報提供していただき、支援内容に反映できるよう努めている。	入居して間もない遠慮がちな方に、「一緒にお茶を飲みましょう」や「ゲームに参加しませんか」等の声掛けで誘っている。一人で居室に居ることが多い方に、入浴時等に職員から意向把握等の声掛けをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から情報提供していただき、記録し、個人のファイルへ保管している。ファイルは職員が随時閲覧可能となっており、支援内容に反映させることができるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活スタイルや現状を把握することができるよう担当の職員がおり、記録を残している。また、入居者様のファイルや連絡帳を活用し、情報の共有に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多職種間だけでなくご家族様や関係者との情報共有や意見交換をし、ケアプランの評価やモニタリングを定期的に行っている。また、共有・交換した情報をケアプランに反映するよう努めている。	申し送りノートや職員の情報を基に、ミーティングでカンファレンスを行い、見直しに繋げている。一人で過ごしたい等の意向を尊重し、プランに反映している。遠方の家族には事前に電話をし、郵送で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録を準備し、その日にあった出来事や生活の様子を記録している。また、ケース記録は職員がいつでも閲覧可能であり、情報共有が可能で、日頃のケアや介護計画に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、どのような支援が必要で、どうすれば可能かを職員で検討し、柔軟な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容の活用や、主治医との情報共有により、地域との交流、地域資源の把握・活用に努めている。現状、積極的な関わりや活用は難しいが、継続して関わりを持っていきたい。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様全員のかかりつけ医は近所にある協力医療機関になっており、健康状態に変化があれば、速やかに相談・受診することができるようになっている。また、必要時、他の医療機関への紹介もスムーズにしている。	かかりつけ医への受診付き添いと、薬処方の代理受診を職員が支援している。家族と通院する1名に、バイタル等の記録を渡し、受診結果を確認、記録している。毎月、歯科医の訪問診療と口腔ケア等の指導を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師はおらず、訪問看護師の利用の予定は今のところない。入居者様の健康状態に変化があれば、協力医療機関に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医と情報提供・共有を行い、入院時には安心して治療ができるように、退院時には必要な支援や設備を準備した上で退院していただき、住み慣れた環境での生活が継続できるよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様のご要望をお聞きしたり、施設として可能な対応を説明する機会を設けている。そして、重度化や終末期における対応についてご家族様と共有し明文化したのち、職員間でも共有している、また、かかりつけ医とも連携できるよう、情報の共有に努めている。	看取りはしていないが、要望に応じている。重度化の対応指針や、立ち会う施設、医師等署名欄を付した看取り介護の同意書がある。重度化後も継続した方に、容態急変時まで支援した。看取り等に不安を抱える職員もあり、年1回の内部研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・急変発生時の対応マニュアルを整備しており、定期的に見直しを行っている。年次研修で職員の知識を深め、対応力を身につけることが出来ている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定も含めた年2回の避難訓練実施、および災害発生時マニュアル、フローチャートの整備をしている。また、地域の方々にも有事の際の協力を依頼している。	職員が1人である時間帯を重視し、夜間想定訓練を行っている。地域住民の参加はないが、近くに住む職員への早期連絡体制がある。消防署の立ち合い、近隣住民の協力依頼と共に、訓練後の記録化を期待する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の自尊心や羞恥心に配慮した声かけや支援をするよう努めている。年次研修により、定期的に自省の機会を設け、お互いに気づいたことを話せる関係づくりに努めている。	呼称は名字や名前に「さん」付けである。入浴時の同性介助要望に応じている。トイレ誘導の配慮不足、スピーチロック等があった際に、自らの振り返りや管理者の注意喚起がある。接遇研修での動機付けがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりにて、ご利用者様の意思や希望を第一に支援するよう努めている。また、意思表示が困難な方については、表情等から思いを汲み取り、希望に沿った支援をするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先させることなく、ご利用者様お一人おひとりの生活様式やペースに合わせた支援をし、希望に沿った支援をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、ご本人様の意志によって衣類の洗濯や整容を可能な範囲でしていただいている。意思表示が困難な方については、過去の好み等の情報を集め、考慮した上で支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食業者の協力により各地のご当地メニューや、旬の食を楽しんでいただいている。また、片付け等は、ご利用者様の状態に応じて行っている。	栄養管理された配食業者の献立を提供している。芋煮会等の行事食では、職員と一緒に野菜の準備や調理を手伝っている。おかげで金時豆や焼き魚等の要望に応じている。食事の際はラジオの音を流している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事や水分の摂取量を記録し、情報の共有をしている。また、医師や看護師との連携のもと、高カロリー食や補食の提供等を行うことが出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在、歯科往診や口腔ケア指導を定期的に受けている。また、毎食後に、ご利用者様の口腔環境に合わせた口腔ケアを様々なツールを用いて行い、義歯の洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様お一人おひとりの排泄パターンや習慣の把握に努めている。意思表示の困難な方については、本人様の様子の変化等を汲み取り、清潔な状態で過ごしていただけるよう支援している。	長時間ベッドにいる2名がおむつ使用で、他の方はリハパンにパッド等で排泄の支援がある。ベルト辺りを撫でる、内腿を擦る等のサインで、トイレへ誘導している。失禁時は、「部屋に行きましょう」等と声を掛けて誘導する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力病院の助言・指導のもと、整腸剤を必要に応じて提供している。また、飲食の機会に、乳製品等の排泄を促すようなものを提供している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴の日時は定めておらず、ご利用者様のその日の体調や気分、前回の入浴日等を考慮しながら声がけを行っている。	車椅子の方も安心できる浴槽側面開閉式の特設浴槽で、洗体後にゆっくりと湯に入っている。好みで選ぶ数種の入浴剤を置き、思い思いに入浴を楽しんでいる。拒否する方に好物の飴を出す等で、浴室に誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣や体調等に応じて居室やソファで休んでいただいている。また、居室の清掃や、馴染みの寝具等を準備するなどして、気持ちよく安心して休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様お一人おひとりの服薬情報が綴られたファイルを準備し、職員間で情報共有できるようにしている。また、薬の変更に関しては、速やかに情報共有できるよう記録や申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味等を本人様だけでなく、ご家族様からも聞き取り、ケアプランや日常のケアに反映している。また、ご利用者様の心身の変化に対応し、様々な楽しみを持っていただけるよう努めている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出が難しいので、敷地内の散歩等外部の人と接する機会が少ない形で、外で季節を感じていただけるようなレクリエーションを行っている。ご家族様や地域の方々と協力しての外出例がないため、今後検討したい。	敷地内やホーム周辺を散歩している。転倒予防や口腔機能向上を目的に気仙沼市が考案した海潮音(みしおね)体操を取り入れ、全員で一緒に運動している。コロナ禍で外出要望に応えられていないが、以前同様に外出計画立案を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はじめ貴重品類については、原則的に施設側がお預かりし、ご希望があった際にご自由に使っていただいている。また、ご本人様が希望されれば、いづらかご自分で所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があった際には職員が電話をかけ、本人様に取り次いでいる。手紙等は、ご家族様の了承を得てから居室に飾らせていただいたり、返信させていただいている。また、オンラインでの面会にも対応している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁飾り等を一緒に作成したり、居室やトイレ等の場所がわかりやすいように、張り紙をしている。また、空調や加湿器を使用し、快適な空間で過ごしていただけるよう努めている。	折り紙等で作成したトンボが舞う秋の風景やクリスマスツリー等を飾り、季節感を彩っている。時計や手作りの日めくりは、見やすい大きな物を掲げている。約2時間に1度の換気を行っている。フロアの清掃時に、箒やモップかけを手伝う入居者がいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにて個別の座席だけでなく、ソファを配置することで、お一人でも誰かと一緒に過ごすことができるようにしている。カウンターも活用し、様々な場所でくつろいでいただけるよう努めている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや写真等をご自宅から自由に持参していただき、ご利用者様お一人おひとりが心地よく過ごせる環境づくりに努めている。また、ご本人様とコミュニケーションを取り、その都度対応させていただいている。	希望する方の居室入り口に、好きな色の台紙に名前、写真等が貼られている。馴染みのイスやテーブルで脳トレや、一日がかりで花や風景等の塗り絵を楽しむ方もいる。孫のウェディング姿や家族の写真を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋・設備に表札等を作成したり、トイレの使用状況を確認できるものを設置するなどしている。ご本人様が確認・判断できるよう工夫し、できることを行っていたりできるよう努めている。		